

【特別寄稿】

## 観劇におけるバリアフリーの現状と事例報告

～SNS が “ルール” を変える～

岩崎千絵美

IWASAKI, Chiemi

キーワード: SNS; バリアフリー; 車椅子; 劇場; ミュージカル; 演劇

Received: 2019. 12. 18

### 1. はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピックを目前に、東京都の交通機関や公共施設は障害者<sup>1)</sup>等配慮を必要とする人達に対応する、いわゆる「バリアフリー化」が進められている。

筆者は介護を必要とする重度障害者であり移動には車椅子を使用している。車椅子で公共交通機関を利用してみると、ハード・ソフト共にかかなり整備され、公共施設・商業施設には当たり前のように多目的トイレが設置され、対応は進んでいることが実感できる。

その一方で、エレベーター・多目的トイレ・地下鉄出入口の不足や設置箇所のわかりにくさ、交通機関での乗車拒否のように、必ずしも十分な対応がなされているとは言えない部分もある。

健常者からは「障害者が何に不便を感じているかわからない」、「障害者にあまり接したことがなく、手伝いたくてもどうサポートしてよいかわからない」といった声が聞かれ、障害者からは「手助けが必要な場面で声をかけにくい」、「差別や不公平に対して声を上げると新たな差別を受ける可能性があり黙って諦めてしまう」等、「心のバリアフリー化」は進んでいない。

このような日本の状況にあって、本稿では筆者の観劇体験を通し、観劇時のバリアフリー状況とその問題点を挙げると共に、SNSを活用した問題解決の事例を報告する。

劇場を使用したエンターテインメントには、映画・コンサート・演劇・演芸・古典芸能等様々なジャンルがあるが、本稿では劇場での演劇に限定し、映画館等で行われるライブビューイングは含まれないものとする。

また、本稿での「車椅子ユーザー」とは、常時車椅子を使用、劇場においては車椅子席を利用する者を対象とし、ケガ等で一時的に車椅子を使用する者や、車椅子を使用しているも起立歩行が可能な者は、断りが無い限り含まれないものとする。

## 2. 観劇におけるバリアフリー状況

本章では、東京都内主要劇場のバリアフリー環境の現状を取り上げる。

### 2.1. 建築構造上のバリアフリー

車椅子ユーザー対応のバリアフリー設備として代表的なものは、エントランスからの動線、車椅子席・多目的トイレ（車椅子用トイレ）及びエレベーターの設置が挙げられる。

筆者が利用した帝国劇場・日生劇場・東急シアターオーブ・赤坂 ACT シアターの 4 劇場の動線に関しては、エントランスからホワイエ・客席まで、バリアフリー上の問題はなかった<sup>2)</sup>。

一方、動線以外のバリアフリー設備については、問題がないわけではない。そこで演劇関連雑誌等で取り上げられることの多い都内 22 劇場の車椅子席、多目的トイレ、エレベーターの設置状況を調査した。なお、調査には各劇場公式 web サイト上の劇場フロアマップ・座席表・FAQ 等の情報ページを使用した。

表 2-1 東京都内主要 22 劇場のバリアフリー環境(2020 年 1 月 26 日現在)

劇場名 (順不同)	車椅子用席	多目的トイレ	エレベーター
赤坂 ACT シアター	× <sup>※1</sup>	○	○
東急シアターオーブ	△ <sup>※1, 2</sup>	△	△ <sup>※1</sup>
シアターコクーン	×	○	○
世田谷パブリックシアター	△	△ <sup>※3</sup>	△ <sup>※3</sup>
シアタートラム	△	×	△ <sup>※3</sup>
四季劇場夏	△	×	×
四季劇場海	△	×	×
紀伊國屋ホール	○	×	×
新国立劇場中劇場	△	○	○
東京グローブ座	×	○	×
東京芸術劇場プレイハウス	○	×	×
東京芸術劇場シアターイースト	○	○	○
東京芸術劇場シアターウエスト	○	○	○
国立劇場 大劇場	○	○	○
シアタークリエ	○	○	○
新橋演舞場	× <sup>※2</sup>	○	×
天王洲銀河劇場	△	△	△ <sup>※4</sup>
東京宝塚劇場	○	○	○
日生劇場	△	○	× <sup>※1</sup>

帝国劇場	○	△	×※5
博品館劇場	×	×	○
東京建物 Brillia HALL	○	○	○

[凡例] ○フロアマップまたは座席表に記載

△フロアマップか座席表に記載はないが FAQ・その他のページに設置してある旨記載

×情報の記載なし<sup>3)</sup>

[注] ※1 web 上では確認できないが、筆者が劇場を利用した際に確認したところ用意されていた

※2 図面にそれらしき枠はあるが、車椅子席であるかどうか不明

※3 劇場平面図に記載

※4 2階のエントランスから1階客席へのエレベーターが設置されているとの情報があるが、場所は不明

※5 エントランスも車椅子席も1階にある為、エレベーターは不要

表 2-2 東京都内主要 22 劇場のバリアフリー環境対応情報掲載状況(2020 年 1 月 26 日現在)

バリアフリー環境への対応情報	車椅子用席	多目的トイレ	エレベーター
○フロアマップまたは座席表に記載	9 件 (41%)	12 件 (55%)	10 件 (45%)
△フロアマップか座席表に記載はないが FAQ・その他のページに設置してある旨記載	8 件 (36%)	4 件 (18%)	4 件 (18%)
×情報の記載なし	5 件 (23%)	6 件 (27%)	8 件 (36%)

### 2.1.1. 情報の探しにくさ

調査にあたって、筆者がまず感じたのは「情報の探しにくさ」である。車椅子ユーザーが外出する際、目的地に行けるか、目的地で目的を達することが出来るか、目的地で快適に過ごせるかを事前に調べておくことは非常に重要である。ところが、web サイトで車椅子席・多目的トイレ・エレベーター設置の有無を調べるには、フロアマップや座席表だけでは不十分で、併せて FAQ 等の情報ページで「車椅子で観劇するには」のような項目を探さなければならない。中には FAQ ページ自体が存在していない web サイトもあった。一方、世田谷パブリックシアター・新国立劇場中劇場・国立劇場大劇場といった国公立劇場は「観劇サポート」や「バリアフリーサービス」といったページを設置し、東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）の web サイトにはテキストの読み上げや、文字の拡大などに配慮した「ウェブアクセシビリティ」のシステムを設置していた<sup>4)</sup>。

### 2.1.2. 各バリアフリー設備の設置状況

各バリアフリー設備の設置状況を見てみると、車椅子席・多目的トイレは、○印と△印を合わせれば半数以上は設置されており、設置率は決して低くはない。

車椅子席については、77%の劇場が設置をしている。車椅子席についての顕著な傾向としては、web サイト上の座席表に車椅子席が明記されているケースが 41%に対して、36%が FAQ ページ等のような座席表ではないページで「車椅子席の用意がある」との記載に留まっている。そのため、設置されていることはわかっていても、具体的にいくつあるのか、どの

位置にあるのかといった情報が得られない。

多目的トイレについては、web サイトに「情報の記載なし」の劇場が 27%ある。そもそも設置されていないのか、単に情報が掲載されていないのかが web サイト上ではわからない。「車椅子席と多目的トイレはセットである」と予測出来る一方、「多目的トイレがなかったらどうしよう」と不安にも感じる。

エレベーターについては、36%の劇場が Web サイト上に設置有無の記載をしていない。この理由としては①客席までエレベーターを利用する必要がないので記載していない②設置の有無に限らず情報自体の掲載をしていない、のいずれかが考えられるが、スタッフの案内付きでのみ使用可能にしている為、あえて記載していないということもある。例えば筆者が利用した東急シアターオーブでは、スタッフ専用の扉の奥にエレベーターがあり、一般に解放されておらず、スタッフへの申し出がなければ使用できない。

## 2.2. 観劇前と劇場内でのサポート

貸しホール公演の場合、客からの問い合わせ・要望への対応は全て主催者が受け、主催者の指示の下に劇場スタッフが当日、エントランスから座席への案内、緊急時のサポート等の会場案内を行う。

観劇チケットの購入方法については、健常者と同じであるが、車椅子席の予約や何らかの配慮が必要な人は、チケット取得後、主催窓口はその旨連絡しておく。主催者側では必要な情報の聞き取りを行い、車椅子ユーザーは要望があればこの時点で伝える。これは車椅子席の予約と、劇場によってはエントランスから客席まで別ルートを通らなければならない、誘導人員の確保や案内をスムーズにする為で、事前連絡なしに会場に行っても観劇を拒否されるわけではない<sup>5)</sup>。また、希望により「車椅子席」を利用することも、チケットに指定された席に移る選択も可能である。

## 2.3. 劇場バリアフリーの本当の問題点とは

これまで見てきたように、東京都内においては、多くの劇場で車椅子ユーザーに対する基本的なバリアフリー環境は整っており、車椅子ユーザーの観劇には然したる不便さはないのではないか、むしろ十分なサポートがなされているのではないかと思われたかもしれない。

では、用意されたバリアフリー環境が障害当事者にとって有効に働いているだろうか。筆者の経験では、車椅子席の設置数が少ないので、先約がある場合は、扉付近等、通常「座席」として用意していない場所に案内されることがある。表 2-2 によれば、劇場のフロアマップに「車椅子席」の位置が明記されているのは、全体の 41%と半数以下である。情報ページで車椅子席が用意されているとの記載はされているものの、客席のどの場所に設置されているかわからないケースもある。また、座席表に車椅子席の明記がされておらず、「車椅子席の用意がある」とだけ記載されている劇場での公演では、車椅子席予約時に主催窓口から座席位置を教えてもらうことはできない為、当日会場に入らなければ“座る”位置がわからない。更に、劇場の機能として最も大事な「見え方」については、車椅子席では

あまり配慮されておらず、見えにくかったり、見えなかったりする問題点が挙げられる。

トイレについては、調査対象の半数以上に設置されているものの、設置されている絶対数が非常に少ない。車椅子ユーザーはトイレの利用に時間がかかりがちで、先に利用している人がいると待ち時間が長くなってしまふ。また、広さが十分でなかったり、手すり等設備品の位置に不備があったりするトイレもある。劇場によっては本館に多目的トイレがなく、別棟地下に設置されていることもある。

エレベーターは、車椅子ユーザー（及び介助者）が自由にエレベーターを使える劇場と使えない劇場があり、後者では、休憩時間にトイレやホワイエに出る場合、その都度劇場スタッフに声をかけなくてはならない。

このように、劇場に関わらず日常的な場面も含め、バリアフリー環境を利用する当事者でなければ気づきにくい不便や不利益は非常に多い。車椅子席からの見え方やトイレの広さ・使い勝手等は、劇場を訪れてみて初めて「不便だ」「見えにくい」「使いにくい」ということがわかる。ところが、障害当事者が現状の不便さや必要な配慮を求め、自ら発信していくことの必要性を感じてはいても、世論に訴えることはしばしば非難の対象になりやすいこともあって、実際には諦めてしまうことの方が多いのではないだろうか。

このことについて南部充央は、日本財団パラリンピックサポートセンター（パラリンピック研究会）と国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）が2016年に実施調査した「障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査報告書」<sup>6)</sup>のプロジェクトチームに参画した際、公立・民間の劇場と利用する個人の障害者と福祉施設にアンケートを取った結果、劇場側は「障害者が鑑賞に訪れており、特に対応で困ったことはない、要望もあがってこない」と認識しているのに対し、個人で劇場に訪れた障害者が相談しなかった理由として「相談しても理解してくれないだろうと思っている」、「相談先がわからない」、「相談にのってくれない」等をあげている<sup>7)</sup>。

### 3. 事例 ～SNSの投稿が“劇場入場ルール”を変える～

近年、消費者志向経営の広がりもあって、企業は消費者に門戸を開き、消費者の幅広いニーズにこたえるようになってきている。しかし、障害者のようなマイノリティのニーズには費用対効果の面からも実現が難しく、車椅子ユーザーが不便や不公平さを申し入れても、巨大組織を動かすことは難しい。

では一人の車椅子ユーザーのニーズが多く賛同者を得て、あたかもひとつの大衆意見のようになった場合、社会を動かすことはできるのだろうか。

ある公演で、筆者の介助者が、介助の為の会場への一時入場（着席時および退席時）を拒否された。後日、筆者が、介助者が入場拒否にあったことの報告と、次に行く公演について車椅子席利用の旨と介助者の一時入場を問合せ窓口に要望すると、あくまでチケットがないと会場に入ることはできないとオペレーターから回答された。また、マネージャークラスの担当者への取次も出来ないと返答された。筆者がそのことをTwitterに投稿したところ、多くの共感や賛同が集まり、介助者入場に関する“入場ルール”が変更されること

になった。次節より、その変更へと至ったいきさつを、投稿全文と共に報告する。

### 3.1. 事例紹介（Twitter への投稿全文）

【優友<sup>8)</sup>の皆さん】

いつもありがとう。

皆さんに聞いて欲しいこと、知って欲しいことがあります。

批判覚悟で勇気を出して投稿してみます。

優友でないフォロワーさんもお時間ありましたら読んでいただければ幸いです。

（以下テキストを画像化して投稿）

優友の皆さん、いつもありがとう。

皆さんに聞いて欲しいこと、知って欲しいことがあります。

IMY を始め、いくつかのイベント会場に 1 人で入ります。

車椅子で観劇するには主催者<sup>9)</sup>に予め申請をしなければなりません。

そして当日会場に入るまで車いすスペースがどこなのかわかりません。

車椅子専用スペースにしる元々の席に座るにしる、席につくまでヘルパーさんについてもらいたいのですがチケットがないと会場には入れません。介助の為だけ、席に着くまでであつてもダメなのだそうです。

席につく際に介助が必要になった場合、スタッフさんが手伝ってくれるそうです。有難いことではありますが、見ず知らずの、介助のいろはを知らないかもしれない人が障害を持っている人は（原文まま）身体状況によって介助方法が異なります。それを知らない人にしてもらうのはとっても怖いです。

万が一ケガがあつた場合の保証もわかりません。

本当はヘルパーさんに入らせていただくのが一番よいのですが、私には 2 人分のヘルパーさんが必要なので計 3 人分のチケットを私が払わなければなりません。他にも費用がかかるので行くことさえ諦めなくてはならなくなります。

席につくまでの付き添い、ロビーでの待機、映画館は OK なのに観劇の場合許可されません。ロビーであつても「会場」である限り入場不可なので、私は休憩時間に会場のお手洗いに入ることも出来ません。

ダメな理由もわかりません。相談先も教えていただけません。

オペレーターさんに上に報告していただけるようお願いするしか窓口がありません。

この現状を差別とは思いませんが不便だと思っています。

席につくまでの介添え、申請時に車椅子席の位置を知らせる（スペース自体はあるはずなのです）、これだけのことを変えるのって難しいことでしょうか。

不正対策なら障害者手帳で対応できますし、他のお客様にご迷惑がかかることではないと思います。

多くの皆さんにこの現状を知っていただき、「それって不便だよな」と思ってくださったら、その声がいつか主催者やホールに伝わるかもしれません。

このシステムが変わるよう主催者やホールに声を上げ続けていこうと思います  
障害のある人が舞台やコンサートを楽しむ為にはこれ以上に様々なバリアがあるのだとい  
うことを知っていただけたら幸いです。

障害のあるなしに関わらず誰もが不安なく気軽に楽しく、人に優しいルールの中で観劇で  
きるようになって欲しいと思っています。

ありがとうございました。

Gracias

Chiemi

(筆者アカウント 2019年4月11日投稿<sup>10)</sup>)

<https://twitter.com/calinos/status/1116305279014989824>



### 3.2. 投稿から解決まで

まず、前節にて紹介した内容を2019年4月11日20:41に投稿した。フォロワーを通じて  
拡散され、4月14日には1万リツイート<sup>11)</sup> (ReTweet: 以下RTとする) を超えた。

この間、4月13日に、ブロードウェイミュージカル『ピピン』の制作スタッフより、ダ  
イレクトメッセージ<sup>12)</sup> (以下DMとする) にて、「制作・運営・劇場の三者間で会議を持ち、  
対応が不可だった場合はその理由を伝える」との連絡が入った。

4月15日8:17、筆者は自身の投稿を『ピピン』の主演俳優・城田優氏の公式アカウント  
宛にコメントを添えてRTすると、同日14:37に城田氏がこれに反応、筆者の投稿が城田氏  
のコメントと共にRTされた。

(投稿全文)

\*拡散希望\* 全ての方が"平等"にエンターテイメントを楽しめるように”人に優しくない、  
凝り固まったルール”は、どんどん無くして行ければと強く思います。一人一人の思いやり  
の声は、重なる事で大きな力となり、きっと少しずつこの世界を、より良いものへと変え  
ていけると信じています。 LOVE&PEACE

(城田優公式アカウント 2019年4月15日投稿)

[https://twitter.com/U\\_and\\_YOU/status/1117663331563655168](https://twitter.com/U_and_YOU/status/1117663331563655168)



拡散は爆発的に広がり、一般の人だけでなく役者・舞台制作者・劇場関係者等からもRT  
された。また筆者とは面識がないが、障害者として影響力を持つ乙武洋匡氏にもRTの協力を  
仰ぎ、拡散の協力をいただいた。

4月16日、『ピピン』関係者より、東京公演にて入退場時及び幕間に介助者はチケットな  
しで介助者の一時入場が可能となったことがDMで伝えられた。その際、他の障害者にも  
状況に応じて対応していくと伝えられた。

投稿の拡散は止まらず、4月17日にはRTは2万を超えるほどになった。

最終的に、4月17日から18日深夜にかけて、城田氏及び『ピピン』公式アカウントより、

正式に『ピピン』全会場（東京・名古屋・大阪・静岡）にて、個々の状況に応じた対応する」旨がアナウンスされた。

（投稿全文）

\*拡散希望\*

ミュージカル「ピピン」に関しては、全会場にて"座席に座らない介助者の方に限り"チケットが無くても、一時入場できることになりました！

様々なケースに備え、現場では臨機応変に対応し、随時、問題を解決していければと思います。皆様、一人一人の思いやりに、心から感謝します。

（城田優公式アカウント 2019年4月17日投稿

[https://twitter.com/U\\_and\\_YOU/status/1118526475475357699](https://twitter.com/U_and_YOU/status/1118526475475357699)



またその後、『ピピン』の主催窓口より、自社が関わる興行に関して、今後は各障害に応じた配慮を可能な限り行うと筆者に伝えられた。4月20日開催の別のイベント時には、介助者の一時入場が可能となり、投稿から約1週間で入場ルールが変更されることとなった。

### 3.3. 結果

入場ルールがわずか1週間という短期間で変更されたのは、多くの賛同者が集まったこと、影響力のある人気俳優がいちファンの要望を目に留め拡散したこと、また合理的配慮の観点からも、たくさんの人からの理解を得られたからであろう。

多くのファンをもつ有名人にとって、1人のファンの要望を取り上げることは“公平でない”と捉えられたり、炎上に繋がったりするリスクもある。しかし、今回はファンからの不満の声がなく皆が協力的であったことも、スムーズに解決に繋がった理由のひとつだと想像できる。

SNS、とりわけ Twitter は巨大コミュニティであるが故に、発信にはリスクを伴う。しかし、力のない者でも声を上げることで、多く賛同を得られれば企業や団体を動かし、社会を一步進められる可能性を秘めている好例となった。また、この件にかかわった Twitter ユーザーが、この大きな変化を、その開演から終演まで逐次見ることができたという意味でも、大変画期的な出来事であった。

### 3.4. 拡散の影響

この一連の動きは、ネット系ニュース担当者の目に留まり、BuzzFeedNews<sup>13)</sup>と東京ウォーカー（全国版）<sup>14)</sup>の2紙から取材を受けた。

これらの記事が、更に mixi ニュースやニコニコニュース、Yahoo ニュースなど各ネット系ニュースに転載され、コメントが寄せられていたり、facebook や個人ブログなどでも取り上げられていたりした。また、後日に筆者が観覧したイベントの際に「Twitter を見た」とのお声がけをいただき、その後も交友関係が継続している。

投稿の拡散は落ち着きを見せているが、2019年12月11日までに2万3千件以上を記録している<sup>15)</sup>。

筆者の投稿へのコメントには、障害を持つ人から多くの様々なニーズが寄せられた。障害者には個々の障害に応じた対応が必要であり、日常生活や動線を健常者が想定しにくい。障害者同士でさえも、障害種別が異なるとお互いの不便さに気が付かないことが多々ある。筆者の投稿を目にした Twitter ユーザーからは、「こんな問題があるなんて知らなかった」、「自分も何かできることをしたい」、障害者としてまた障害者を家族に持つ当事者達からも「声を上げてくれてありがとう」という感謝の意などが多数寄せられ、これらは筆者への勇気と気力に繋がった。

### 3.5. 一連の動きを振り返って

SNS が世論や組織を動かせる時代であるとは言っても、このように事態がスムーズに動くケースは稀である。SNS に投稿しても、それが多くの人に RT され、賛同を得ることは非常に難しい。

また SNS での発信が拡散されると、一部の心無い反応によって当事者が二重三重の差別を受ける可能性がある。筆者も、健常者だけでなく障害者からのネガティブな反応をいくつか目にしている。当事者が声を上げる難しさを痛感させられる。

一方では、この活動を通じて、多くの人との繋がりが出来、筆者の観劇時に協力をいただいたり、障害者を取り巻く日本のバリアフリー状況に関心を持っていただけになったことは意義深い。

## 4. 何故、劇場のバリアフリー環境は改善されにくいのか

### 4.1. 劇場設計上の問題

諸々の問題の中でも、特に解決が難しいのは劇場設計上の問題である。もちろん、安全やアクセシビリティを優先する為に使い勝手が犠牲になること否めないが、「合理的配慮」の下、各法令・基準を満たした上で「設置すればそれでよし」とされていて、見えにくい席・見えない席、使いにくいトイレ等、当事者である車椅子ユーザーの意見が使い勝手に反映されていないのではないかと、筆者は少なからず感じる。

### 4.2. 運用上の問題

運用の面では、特に大規模興業では制作・主催および共催・運営等の関係者が多岐にわたるが故に、スムーズに問題解決が図りにくい。

また、日本においてミュージカルは、一般的にまだ敷居の高い娯楽であるが、車椅子ユーザーにとっては、劇場に足を運ぶ段階から会場設備に対する不安（階段・多目的トイレ・通路やホワイエの広さなど）、決して安価ではないチケット代の経済的負担もあって、いっそう敷居が高い。筆者の経験では、収容人数約 1,500~2,000 人程度の劇場にて行われる公演 1 回あたりで見かける車椅子ユーザーは筆者含めて 1 人か、せいぜい 2~3 人である。劇場・主催側にとっても、来るか来ないかわからない障害者の為のサポート体制を充実させる費用対効果の問題がある。劇場での障害者雇用が非常に少ない点も、解決が難しい理由

のひとつであろう。

### 4.3. 理解を得ることの難しさ

更に、障害者に対する配慮と、健常者の権利意識とのバランスを取ることも非常に難しい。南部は、自ら関わったイベントにおいて安全性や混雑などの配慮により障害者を先に入場させた結果「なぜ、その人たちだけを優遇するのですか。私たちはずっと並んでいる。特別扱いだ」という声が上がったという<sup>16)</sup>。車椅子ユーザーは、移動や動作に時間がかかり、多目的トイレの数が少なかったり、混雑するホワイエでの買い物にも困難が生じたりする。あるいは障害上、体温調整が難しい為に開場前の時間を外で待つことに苦痛を強いられる人達もいる。だが、そのことが理解されることはなかなか難しい。

## 5. むすび

本稿では、劇場のバリアフリー環境について概観してきた。ある程度のバリアフリー環境は整ってきている一方、2章で触れた車椅子席のサイトラインの問題、チケット代の問題、席種選択や同伴者の席の問題、ウェブアクセシビリティの問題等、きめ細やかな対応は置き去りにされている。これらの問題に対する調査研究は今後の課題としたい。

多様性の重要さが叫ばれる現代においては、身体障害者だけでなく、視覚障害者、聴覚障害者、内部・発達・精神障害者等外からでは気づかれにくい障害を持つ人達、親子鑑賞、高齢者にも配慮が必要である。一方、当事者からの発信は、差別を受ける可能性もあり、決して簡単ではない。

2016年施行の障害者差別解消法によって、現在では『障害』とは人にあるのではなく人と社会と間の環境にある」とされ、行政や企業団体は合理的配慮が求められている。また、2018年にユニバーサル社会推進法<sup>17)</sup>が施行され、障害の有無・年齢・性別等の社会的カテゴリーに関係なく、誰もが安心して快適な社会を初めから構築する<sup>18)</sup>といった新しい考え方が徐々に広まっていくことが望まれる。時代を作るエンターテインメント業界がこうした考えを積極的に取り入れ、日本のエンターテインメント業界が世界で最も人に優しいものになるようお願いしたい。

最後に筆者のTwitter投稿に手を差し伸べてくださった城田優氏、関係者をはじめ、賛同してくださった多くの皆様に心からの感謝を申し上げます。また本誌においてこのような投稿の機会をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

## 追記

第3章にて触れたTwitterへの投稿から約1年が経過した2020年2月、筆者が行く予定だった2つの公演にて、再び介助の為だけの介助者一時入場にチケットが必要だと問合せ窓口にて対応された。この窓口は、第3章で記述した、介助者の一時入場を拒否した窓口と同一である。

「入場ルールは変更されたはずなのに、この対応は以前と変わっておらず、おかしいのではないかと粘り強く交渉をした結果、主催者に確認を取るとの返答を得て、後日、介助者の一時入場は受け入れ可能だとの連絡が入った。また、マニュアルやオペレーター対応を取りまとめる担当者に、何故未だにこのような対応を続けているのかと問い合わせた結果、一部のオペレーションに不適切な対応があったことは認められた。この窓口では、2019年4月の筆者の投稿以降、社内会議を持ち、対応方法の見直しを行ったが、一時入場にチケットが必要だという対応は変更していないという。その理由については「様々な入場形態がある為」との回答を得た。更によく聞いてみると、今までに介助者が一時入場出来ないような形態の公演は経験上ないが、今後そのような公演があるかもしれない為、どんな公演でも対応できるよう、一律に規定したとのことだった。

筆者は、「介助者の一時入場は障害者にとって必要な支援である。会場スタッフでは対応が難しいので要望しており、可否判断されるものではなく、当たり前を受け入れられるものではないか」という旨を改めて伝えた。なお、この事例の詳細については筆者の [note<sup>19\)</sup>](#) をご参照いただきたい。

## 註

- 1) 「障害者」には「障害者」「障がい者」のような表記が見られるが、本稿では「障害者」とした。これに他意はない。
- 2) 日生劇場では中2階席に行く際に1段段差があったが、劇場スタッフの案内があり、客席に向かうのに困難なほどではなかった(2018年筆者利用時)。
- 3) 赤坂ACTシアターのwebサイトには車椅子用席に関する記載がない。しかし、実際に筆者が劇場を利用した際には設置されていた。したがって、図2-1でバリアフリー設備が「情報の記載なし」となっている劇場でも実際には設置されている可能性がある。
- 4) 国公立の劇場のwebサイトに障害者向けの情報ページやウェブアクセシビリティが充実している理由として、障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律:平成25年法律第65号)における合理的配慮の提供が、行政機関には法的義務が課せられているのに対して、民間事業者には努力義務が課せられるに留まっていることが考えられる。
- 5) ただし障害者差別解消法の「合理的配慮の提供」は「その実施に伴う負担が過重でないときは」と規定されている為、当事者の要望が完全に提供されるとは限らない。
- 6) 南部充央『障害者の舞台芸術鑑賞サービス入門 人と社会をデザインでつなぐ』(NTT出版、2019/9/11) 29-38頁 なお、この調査はジャンルを演劇に固定したものではない。
- 7) サポートが必要ない、事前に調査して不便がなかったと回答した障害者もいた。
- 8) 城田優氏のファン同士を呼び合う愛称である。
- 9) 公演によって、主催者が問合せ窓口となる場合や、運営事業者が窓口となる場合などがある。本来なら「窓口」とすべきであるが、Twitter投稿の原文ままとした。
- 10) コメント欄には非常に温かなメッセージと共に様々な困りごとが寄せられた。便宜の為QRコードを掲載した。ぜひご一読いただきたい。
- 11) Twitter上で自分や他人のツイートを再投稿する機能である。他人の投稿に自分の意見を添えた再投稿は「引用リツイート」と呼ばれる。
- 12) SNS内で、個人やグループでのみやり取りできる機能のことである。
- 13) BuzzFeedNews 久松怜央奈「城田優の“神対応”が世界を変えた。車椅子のファンの願いにとった行動とは…」<https://www.buzzfeed.com/jp/reonahisamatsu/shirostayu-pipin> (BuzzFeedNews、2019/04/18) 2019年12月15日確認
- 14) 東京ウォーカー(全国版) 国分洋平「城田優、「全ての方が平等に…」SNSで訴え、出演舞台の「車いすヘルパー入場不可」を覆す」<https://www.walkerplus.com/article/187203/> (東京ウォーカー(全国版)、2019/04/18) 2019年12月15日確認

- 15) ツイートアナリティクスによるカウント。
- 16) 南部（前掲書）6頁
- 17) ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律(平成30年法律第100号)
- 18) 例えば障害者の為に特別用意したスロープではなく、初めから皆が使えるようなスロープを設置すれば費用面でも合理的である。
- 19) **note** 筆者アカウント 2020年2月18日投稿「再び介助の為に介助者入退場にチケットが必要だと言われています。」 <https://note.com/gracias/n/n54cf4d83891c>